

エゾシカ A 地区（ルシヤ地区）の季節移動調査（1 年目）

1. 調査概要

- ・斜里町ルシヤ地区においてエゾシカのメス成獣を平成 26 年 6 月に 4 頭、8 月に 2 頭、11 月に 4 頭、計 10 頭生体捕獲し、GPS テレメトリー首輪を装着した。
- ・首輪の測位間隔は、12 月 1 日～翌年の 6 月 30 日までを 1 時間に 1 回、7 月 1 日から 11 月 30 日までを 12 時間位 1 回を基本スケジュールとした。その後、平成 26 年 3 月中旬まで行動追跡を行い、得られたデータを解析した。
- ・行動圏面積（最外郭法）や生息位置と車道からの距離等について、個体や月別に解析し考察を行った。



図 1-6-1. 各個体の捕獲地点

14AD02～05：平成 26 年 6 月捕獲

14AD06～07：平成 26 年 8 月捕獲

14AD08～11：平成 26 年 11 月捕獲

2. 結果概要

- ・作業員がヒグマと至近距離で遭遇する、不動化中のシカがヒグマに持ち去られるといった危険な状況は発生しなかったものの、生体捕獲作業中にヒグマが出現し、追い払いを行うケースが6月に3件発生した。
- ・各個体について 2361～2712 ポイントのデータを取得。各個体のデータの取得率はいずれも 98%以上と極めて高かった。
- ・調査期間中の各個体の行動圏面積は 0.7～2.9 km²であり、すべての個体がルシヤ地区の狭い範囲で生活しており、定着性が強いことが示唆された（表 1、図 2～4）。
- ・ルシヤ川の左岸で捕獲した 14AD03 とテッパンベツ川右岸で捕獲した 14AD04 の行動圏がほとんど重ならないなど、行動圏が他群の個体とは重複しない傾向が認められた。
- ・14AD02 がポンベツ川より東側にあまり行かないなど、河川がシカの行動圏の緩やかな境界になっていた。
- ・6～9月はルシヤ地区の車道沿いを利用する個体が多く、10～12月は逆に少なくなっていた。1～2月になると、一部個体で車道沿いを利用する頻度が再び増加した（表 2）。
- ・初冬の12月、シカは日の入り時刻前後に車道沿いに出現する傾向が認められた（表 3）。

表 1-6-1. 個体別・月別の行動圏面積

ID	6月 (km ²)	7月 (km ²)	8月 (km ²)	9月 (km ²)	10月 (km ²)	11月 (km ²)	12月 (km ²)	1月 (km ²)	2月 (km ²)	3月 (km ²)	通期 (km ²)
14AD02	0.2	0.1	0.2	0.5	1.2	1.2	1.0	0.2	1.2	0.2	2.8
14AD03	0.2	0.3	0.3	0.3	0.7	0.2	0.4	0.3	0.7	0.1	1.6
14AD04	0.2	0.3	0.2	0.2	1.1	0.3	0.5	0.3	0.2	0.1	1.9
14AD05	0.4	0.5	0.4	0.3	1.2	0.6	1.8	0.4	0.8	0.2	2.9
14AD06	—	—	0.4	0.9	0.6	0.9	0.9	0.4	0.8	0.1	2.1
14AD07	—	—	0.3	0.3	0.6	0.7	0.9	0.6	0.7	0.1	1.6
14AD08	—	—	—	—	—	—	0.6	0.2	0.1	0.1	0.7
14AD09	—	—	—	—	—	—	0.8	0.4	0.5	0.1	1.0
14AD10	—	—	—	—	—	—	1.8	0.3	0.9	0.2	2.3
14AD11	—	—	—	—	—	—	0.8	0.3	0.5	0.3	1.0

*測位頻度は、6月～11月は12時間に1回、12月～2月は1時間に1回

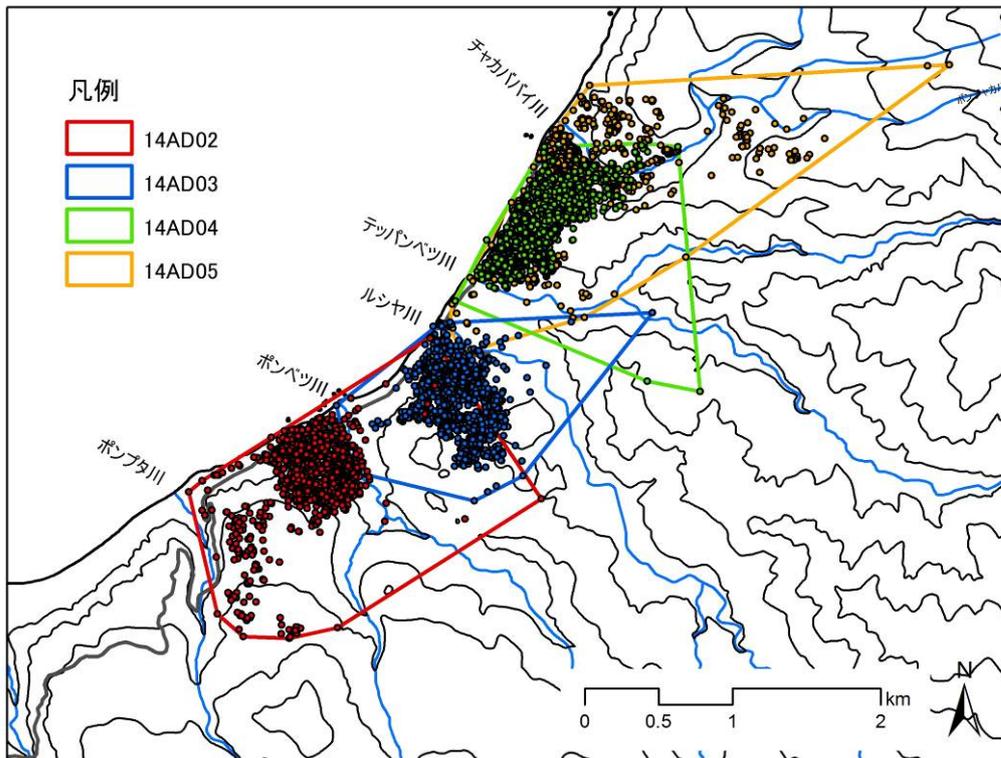


図 1-6-2. 6月に生体捕獲した4個体のポイントと行動圏(平成26年6月～平成27年3月)

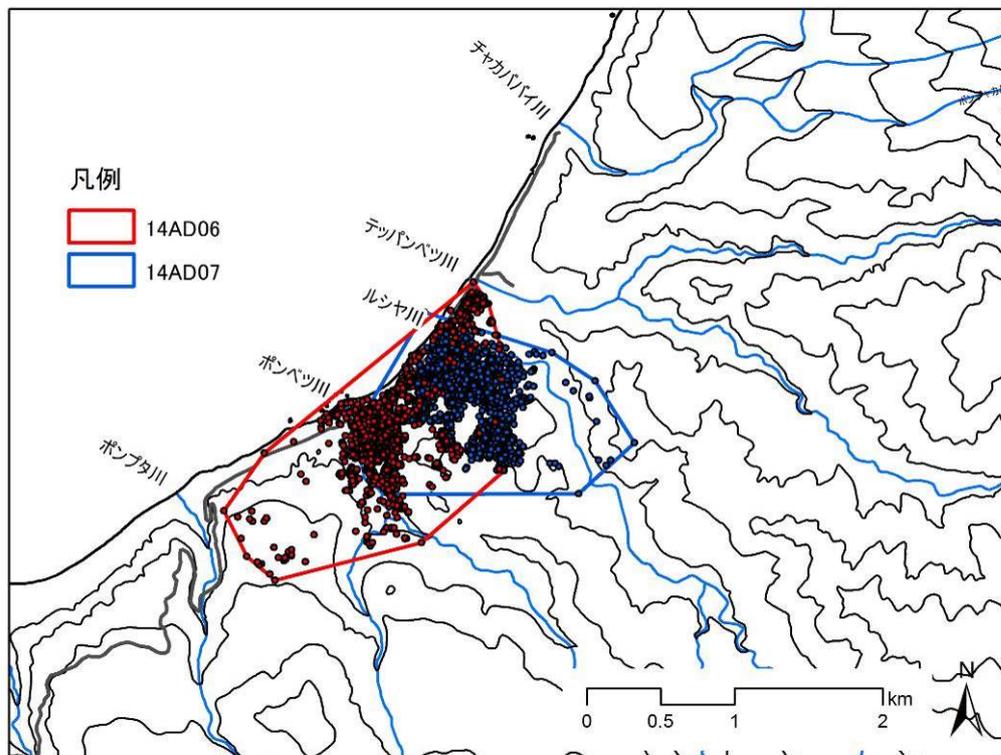


図 1-6-3. 8月に生体捕獲した2個体のポイントと行動圏(平成26年8月～平成27年3月)

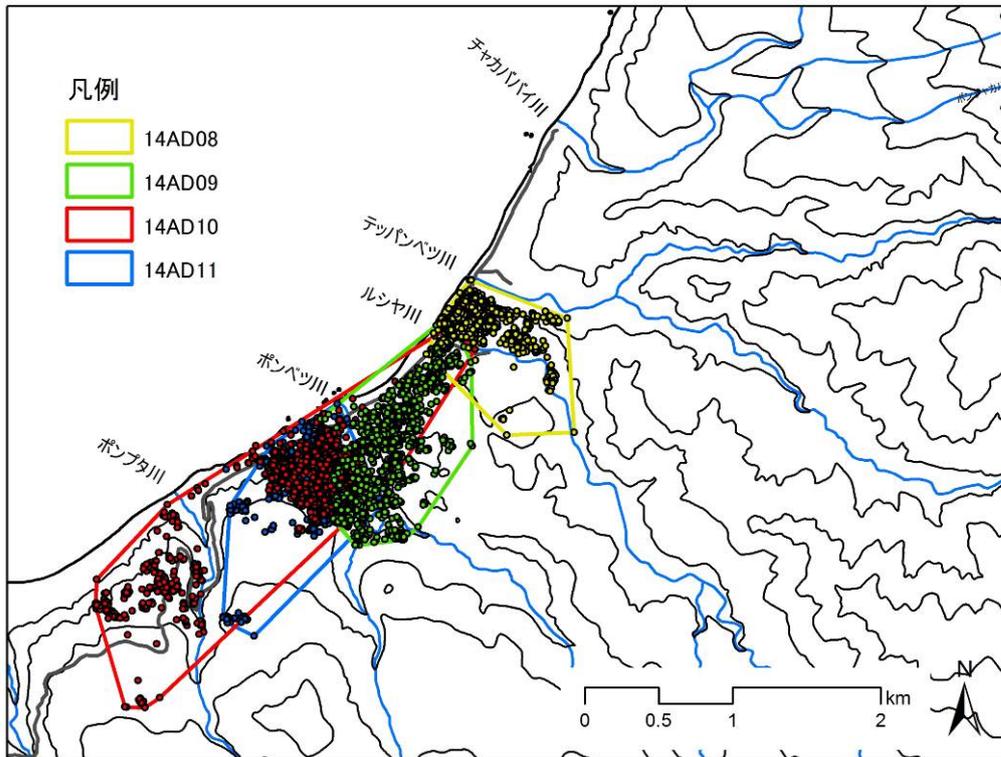


図 1-6-4. 11 月に生体捕獲した 4 個体のポイントと行動圏
(平成 26 年 11 月～平成 27 年 3 月)

表 1-6-2. 月別に算出した、車道からの距離 100m 以内のエリアの利用割合

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
14AD02	91.2%	68.5%	66.1%	57.7%	28.6%	16.1%	10.0%	6.2%	8.4%
14AD03	17.1%	9.6%	14.0%	11.5%	2.0%	0.0%	1.6%	6.0%	12.3%
14AD04	64.5%	20.7%	74.2%	52.6%	16.1%	24.1%	37.3%	76.9%	47.6%
14AD05	63.3%	44.2%	44.8%	18.4%	7.0%	7.3%	13.5%	34.1%	25.4%
14AD06	-	-	65.4%	75.0%	50.0%	25.9%	19.4%	8.6%	20.5%
14AD07	-	-	24.0%	28.6%	10.0%	30.2%	6.9%	12.2%	28.7%
14AD08	-	-	-	-	-	-	28.6%	63.4%	67.3%
14AD09	-	-	-	-	-	-	1.1%	2.0%	10.5%
14AD10	-	-	-	-	-	-	22.0%	2.7%	4.8%
14AD11	-	-	-	-	-	-	10.1%	7.9%	7.3%

*利用割合が 30%以上に赤印

*測位頻度は、6～11 月は 12 時間に 1 回、12～2 月は 1 時間に 1 回

*11 月下旬に捕獲した個体 (14AD08～14AD11) では、11 月の利用割合を算出せず

表 1-6-3. 時間帯別に算出した、車道からの距離 100m 以内のエリアの利用割合
(平成 26 年 12 月)

	14AD02	14AD03	14AD04	14AD05	14AD06	14AD07	14AD08	14AD09	14AD10	14AD11
0時	16.7%	6.7%	43.3%	26.7%	26.7%	6.7%	33.3%	0.0%	20.0%	10.0%
1時	12.9%	3.2%	51.6%	16.1%	25.8%	3.2%	41.9%	0.0%	22.6%	9.7%
2時	9.7%	3.2%	48.4%	6.5%	25.8%	6.5%	38.7%	0.0%	20.7%	9.7%
3時	9.7%	3.2%	48.4%	6.5%	25.8%	9.7%	41.9%	0.0%	19.4%	12.9%
4時	13.3%	3.2%	48.4%	6.5%	22.6%	9.7%	32.3%	3.2%	19.4%	12.9%
5時	12.9%	3.2%	41.9%	6.5%	16.1%	6.5%	32.3%	0.0%	16.1%	12.9%
6時	6.5%	3.2%	38.7%	0.0%	9.7%	0.0%	25.8%	0.0%	12.9%	9.7%
7時	3.2%	0.0%	22.6%	6.5%	6.5%	6.5%	25.8%	0.0%	16.1%	9.7%
8時	3.2%	0.0%	12.9%	3.2%	3.2%	6.5%	19.4%	0.0%	19.4%	3.2%
9時	9.7%	3.2%	9.7%	0.0%	6.5%	6.5%	16.1%	0.0%	22.6%	3.2%
10時	9.7%	0.0%	3.2%	3.2%	6.5%	12.9%	16.1%	0.0%	29.0%	6.5%
11時	6.5%	0.0%	9.7%	0.0%	6.5%	9.7%	19.4%	0.0%	32.3%	6.5%
12時	9.7%	0.0%	6.5%	3.2%	9.7%	6.5%	12.9%	0.0%	32.3%	9.7%
13時	9.7%	0.0%	12.9%	3.2%	16.1%	6.5%	25.8%	0.0%	29.0%	9.7%
14時	9.7%	3.2%	16.1%	9.7%	22.6%	6.5%	22.6%	0.0%	32.3%	6.5%
15時	9.7%	3.2%	29.0%	25.8%	22.6%	12.9%	22.6%	0.0%	12.9%	12.9%
16時	12.9%	3.2%	54.8%	35.5%	32.3%	12.9%	32.3%	3.2%	25.8%	9.7%
17時	9.7%	0.0%	61.3%	20.0%	29.0%	3.2%	48.4%	6.5%	22.6%	12.9%
18時	9.7%	0.0%	58.1%	19.4%	25.8%	3.2%	25.8%	3.2%	25.8%	12.9%
19時	9.7%	0.0%	58.1%	19.4%	25.8%	3.2%	32.3%	3.2%	19.4%	12.9%
20時	9.7%	0.0%	58.1%	22.6%	25.8%	3.2%	29.0%	3.2%	19.4%	12.9%
21時	9.7%	0.0%	51.6%	25.8%	25.8%	3.2%	32.3%	3.2%	22.6%	12.9%
22時	12.9%	0.0%	54.8%	29.0%	22.6%	9.7%	29.0%	0.0%	16.1%	12.9%
23時	12.9%	0.0%	54.8%	29.0%	26.7%	9.7%	29.0%	0.0%	19.4%	9.7%

*利用割合が 25%以上に赤印

*平成 26 年 12 月 1 日の根室地方の日の出時刻は 6 時 29 分、日の入り時刻は 15 時 43 分

3. まとめ

調査対象とした 10 個体において、調査期間中にはルシャ地区外への移動は認められなかった。無雪期にルシャ地区で観察されるシカは、越冬期もルシャ地区で過ごす定住型の個体であり、ルサー相泊地区などの他地区で越冬するシカが夏期に混ざっている可能性は低いことが示唆された。

ただし現時点では追跡期間が 1 年未満であること、生体捕獲の実施時期が 6～11 月であったことなどから、ルシャ地区に生息するシカの季節移動の有無、特に他地区からの越冬期の流入の有無を明らかにするには、情報が不足している。GPS テレメトリー首輪を装着したシカの今後の動きを経過観察しながら、状況によっては追加調査についても検討が必要と考えられる。

知床半島における主要な越冬地の中で、ルシャ地区は唯一個体数調整未実施。現管理計画策定時においてもその扱いについて議論がなされたが、その結果、2 期計画中に必要な調査を行った上で、3 期計画策定段階で知床岬地区と同様に特定管理地区として個体数調整を行うか、A 地区の管理方針である人為的介入を

避ける原則を堅持するか判断することとなった。本調査はその判断を行う上で不可欠な季節移動の状況を把握するために実施したものである。

平成 26 年度ヘリセンサスでは生息密度 5.36 頭/km² (U-12、U-13)。前回調査 (平成 25 年度) では 6.12 頭/km²のため、大きな変化はない。また、季節移動調査の結果からは少なくとも無積雪期については定着型である可能性が高い一方で、越冬期については周辺地域から流入している可能性も否定できない。

*平成 27 年 4 月以降の動向について

- ・2014 年 8 月に標識を装着した 1 個体 (14AD07) が、7/26-28 にかけてルシヤ地区から羅臼町側に移動。7/28 には、ルサ相泊地区よりも南側のチェンベツ川流域に滞留。8/2 には再びルシヤ川流域に戻った。14AD07 を除く 9 個体については、ルシヤ地区内からの移動は一時的なものも含めて認められていない。

